食品･飼料･環境検査キット ＜きっとセーフ＞ シリーズ

遺伝子組換え検査 Trait 大豆 シリーズ

ラテラルフロー法による遺伝子組換え大豆の定性スクリーニング検査

ラテラルフロー（イムノクロマト）法試験紙タイプのキットで、遺伝子組換え RoundUpReady 大豆の混入を約 10 分で Yes/No 判定することができます。遺伝子組換により発現する特定のタンパクを、抗原抗体反応を利用して測定します。
ラテラルフロー法のメンブランストリップには、目的タンパクに対する抗体がライン状に塗布されています。試料を破砕均一化し、水を加えて抽出。試験紙を浸して5～10分待つと、陽性の場合には、テストラインが赤く着色し、簡単に判定できます。
試料中に一粒以上あるかないかの定性テストですが、一定粒数試料を複数回テストすることで、統計学的な解釈により、例えば「1,000 粒テストが2度とも陰性の場合、99%の確からしさで、GM 混入率が 0.3%未満である」といった推計利用法もあります。

これらの製品は、Strategic Diagnostics Inc.社が遺伝子組換え作物のメーカーと提携して開発したもので、事実上の世界標準キットといえます。

製造：Strategic Diagnositcs Inc.社

<table>
<tr><td rowspan="3">品名
コード№
価格･仕様

キット内容</td><td colspan="2">遺伝子組換え大豆検査 ＜Trait＞ シリーズ</td></tr>
<tr><td>＜Trait＞RUR 大豆バルクテスト
100 本 （1422M） 80,000 円</td><td>RoundUpReady 大豆による CP4 EPSPS タンパク
（アルファルファ乾草/生葉のテストも可）*</td></tr>
<tr><td>＜Trait＞RUR 加熱済大豆テスト
100 本 （1432M） 80,000 円</td><td>RoundUpReady 大豆による CP4 EPSPS タンパクで、加熱などによる変性を受けたもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラテラルフローストリップ 100 枚、マイクロチューブ 100 個、スポイト等</td></tr>
<tr><td>目的･用途</td><td colspan="2">生大豆バルクにおける遺伝子組換えラウンドアップレディ大豆のスクリーニング定性検査。

生大豆バルク原料においては、統計的解釈手法を用い、特定の粒数を複数回検査することで、一定確度による GM 混入比率の推計を行うことができます。
すなわち 1000 粒のサブサンプル試料 1 個をストリップ 1 本でテストした場合には、1,000 粒中に一粒以上含まれているかいないか(YES/NO)といった結果がえられます。また、

例えば、1,000 粒のサブサンプルを2つ用意し、すべてテスト、すべて陰性の場合、
バルクサンプルへの GM 混入率が、99%の確からしさで、0.3%以下である、といえます。

RUR 加熱済大豆キットは飼料用の Toasted Meal からの定性試験のほか、豆乳や豆腐からの検出も可能です。

*アルファルファ乾草/生葉のテストのアプリケーションは別途お問合せ下さい。</td></tr>
<tr><td>原理と
検出限界</td><td colspan="2">ラテラルフローストリップ法（イムノクロマト法）
【RUR 大豆バルクテスト】：1粒/最大 1,000 粒中
【RUR 加熱済大豆テスト】：0.9%</td></tr>
<tr><td>所要時間
保存条件</td><td colspan="2">前処理：約5～10分、キット操作：約5～10分
暗所･室温。高温多湿はさけてください。</td></tr>
</table>

本品は食品衛生･環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。　必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用･保管･廃棄等の方法には充分ご注意下さい。　なお、価格･仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。

アヅマックス株式会社　http://www.azmax.co.jp/　E-mail:sales@azmax.co.jp
東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312

操作	キット、バージョンにより異なります。また、予告なく仕様変更される場合があります。ご使用前に、必ずキット取扱説明書でご確認下さい。 **＜Trait＞RUR 大豆バルクテストの場合** ①試料を破砕、水と混ぜ合わせ静置する。 ②上清をミニチューブにとる。 ③フローストリップをチューブ内の液につけ置き、5分静置する。 ④テストラインのバンドの有無を確認する。 **＜Trait＞RUR 加熱済大豆テスト Toasted Meal 試料の場合** ①試料を破砕、バッファーと混ぜ合わせ静置する。 ②試料をカップにとる。 ③フローストリップをカップ内につけ置き、10 分静置する。 ④テストラインのバンドの有無を確認する。 ＜Trait＞RUR 加熱済大豆テストを用いた豆乳、豆腐試料の実験例 ①試料 1g、バッファー及び蒸留水各 1mL を加え、混ぜ合わせ高速振とうする。(豆乳) ②試料 1g、バッファー及び蒸留水各 4mL を加え、混ぜ合わせ高速振とう、上清をとる。(豆腐等) ③フローストリップを試料内につけ置き、10 分静置する。 ④テストラインのバンドの有無を確認する。 この場合の閾値感度は、豆乳で約 1-3%、豆腐で約 3-5%で、あくまで実験例です。これらの加工製品に対する感度は加工度合やその他含有成分等、条件により大きく異なると考えられます。
その他必要機器 試薬	検体粉砕用のブレンダーが必要となります。

Trait RUR 大豆バルクテストを用いた
Round Up Ready アルファルファ
干草、生葉の検査アプリケーションは、
別途お問合せ下さい

本品は食品衛生･環境等に関わる自主検査用キットであり、臨床検査等診断に用いることはできません。　必ず取扱説明書等をご覧頂き、使用･保管･廃棄等の方法には充分ご注意下さい。　なお、価格･仕様など、内容を予告無く変更する場合があります。
アヅマックス株式会社　http://www.azmax.co.jp/　E-mail:sales@azmax.co.jp
東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312